



あなたの未来を守るライフスタイル情報誌

乳酸菌 PRESS

2017
NO.4

INDEX

NEWS 01 富士通フロンティアレッツが
乳酸菌 LS1 のオフィシャルパートナーに！…………… P.1
NEWS 02 Apple Dental Center 畑 慎太郎院長インタビュー …… P.2

NEWS 03 健大高崎高校 春の選抜甲子園大会出場 …………… P.4
NEWS 04 (宮城県) 秀光中等教育学校
第8回全日本少年春季軟式野球大会出場 …………… P.4



NANO Association

富士通フロンティアレッツが
乳酸菌LS1のオフィシャルパートナーに！

より美しい「勝利の女神」へ

一般社団法人日本社会人アメリカンフットボール協会主催のコンテスト
「Cheerleaders of the Year」で1位の実績を誇るフロンティアレッツ

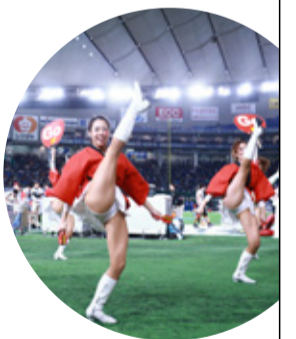
私たちがチームを訪れたのは平日の夜7時。メンバーそれぞれが仕事を終えてから行われるチーム練習の開始前でした。ゲームで良いパフォーマンスを発揮するためには、当然練習が大切ですが、それは私たちの想像をはるかに超えた、高いフィジカルと表現力が要求されます。週3日行われる貴重な練習時間を割いて、口腔ケアと予防歯科の大切さや、乳酸菌LS1の説明に耳を傾けていただいた彼女たち。軽やかな動きと「美」を追求する彼女たちの真剣な眼差しと笑顔が印象的でした。

ダンスと笑顔でチームを鼓舞するだけでなく、その場にいる観客をも魅了する。彼女たちの存在は、アメリカンフットボールにはなくてはならない象徴ともいえます。富士通フロンティアレッツは、厳しいオーディションを経て、社内外から結集された精鋭たち。現在現役のメンバーは16名在籍しています。

乳酸菌LS1で「表現力」に磨きをかける

そもそもチアリーディング発祥の地アメリカでは、アメリカンフットボールだけでなく、野球、バスケットボールなどでもチアリーダーたちは中学、高校、大学、プロのゲームで活躍しています。特にプロチームのチアリーダーたちはセレクションに合格するまでに半年間もの審査に合格しなければなりません。審査基準はダンスパフォーマンスのクオリティだけでなく、観客を魅了する「表現力」も含まれます。私たちが彼女たちとお会いして感じたことは、やはり笑顔の大切さです。(なんととっても歯がキレイ!) チアリーディングに求められる表現力は観客を引き込み、ゲームを盛り上げる演出であり、スポーツの楽しみ方を伝える伝道師と言っても良いかもしれません。繊細さと力強さ、そして「美」が要求されるパフォーマンスのクオリティをより高めていくために、口腔内ケアの必要性を感じている彼女たち。ハイレベルのダンスや、とびきりの笑顔をいつまでも見たい。そんな一心で乳酸菌LS1はフロンティアレッツをサポートしていきます。

練習前、乳酸菌LS1の説明を真剣に聞く彼女たち





東京都西東京市・東伏見駅の駅前立地でありながら、どこか閑静な雰囲気がある Apple Dental Center。開院は2004年6月で、2回の改装と診療プロセスの変更を重ねながら、現在は8部屋の個室で清潔感溢れる、明るい雰囲気で患者さんを迎えています。



優しい光が入り込む、明るく清潔感溢れる個室の診察室。



院内の壁にある大きなパネル。「80歳で28本の歯を残す」という畑院長の決意が伺える。

2 痛くなってから来院する患者さんは、「早く治してほしい」と思うでしょうから、理解や信頼を得るのが大変そうですね

当院では痛みが強いような場合は緊急処置を行います。当院では、当面咬める様にするといった場当たり的な治療はしません。なぜなら多くの患者さんのお口の中は過去に治療を受けた歯のトラブルのくり返しが多いため、虫歯や歯周病のリスクをすぐに削って金属やプラスチックに置き換えてもまた再発を繰り返してしまいます。したがってまずはなぜそうなったのかという原因の分析から始めるわけですね。写真とレントゲンにて、現在の口の状態をお互い知ることから始め、食生活や唾液検査などの検査で虫歯や歯周病のリスク評価をきちんと行ってから、症状に応じて治療を決めていきます。このリスク評価が当院のいちばんの特徴です。1回目のリスク評価の後に初期治療を行い、その治療によってどう変化したのか調べるため、もう一度リスク評価をしてから治療計画を立てます。最初の検査の結果だけでは修復治療中心になりがちだからです。歯科治療は急いで行うと、やりすぎてしまうものなんです。患者さんにはプロセスを踏むことの必要性をきちんと説明し、理解してもらっています。当院では、患者さんにはまず歯科衛生士が担当について、検査結果の説明などは衛生士が行います。虫歯や歯周病の原因になるバイオフィルム（微生物）の状態を定期的・継続的に管理していくのは歯科衛生士ですから、歯科医療で非常に大きな役割を担っているんですね。

3 どのような患者さんが来院されていますか？

患者さんは地元の方以外にも神奈川県や埼玉県からもいらっしゃいます。年齢層は子どもから高齢の方までさまざまです。すぐそばに早稲田大学やアイズホッケー場があるので、大学生の患者さんやアイズホッケーの試合で歯を折ったりした人が受診することもあります。ただ、小学校高学年から高校生くらいの子どもの患者さんが少ないのは気がかりですね。これは当院だけではなく、それくらいの年齢の子どものあまり歯科医院に行かないのではないのでしょうか、親の言うことをいっばい聞かない年頃です。この頃に定期的に歯の状態を見ていくことは将来にわたって歯の健康を守るために重要なので、心配ですね。

4 「予防歯科」を推進していく上での展望をお聞かせください

日本は高度経済成長期にケガや疾病に関する「治し方」の知識や技術が飛躍的に進歩しました。日本の平均寿命はまだ上昇傾向にありますが、「健康寿命」を患者さんと二人三脚で真剣に取り組んでいくにあたっては、「治し方」と「予防策」を分けて考えていただくことへの理解が大切だと思います。患者さんに対してどのように工夫をしながら正しい知識や真実、リスクを「リマインド」していくか、そこには歯科医師や衛生士だけでなく、企業と連携した啓蒙活動も大切だと思います。



「過去を治し、未来をつくる」

Apple Dental Center 畑 慎太郎院長インタビュー

Profile

院長 畑 慎太郎

1999年3月	東京医科歯科大学 卒業
1999年4月	神奈川県老名市 アップル歯科クリニック勤務
2004年6月	東京都西東京市 アップル歯科クリニック開業
2014年10月	医療法人社団 ADC 設立

1 開院時からの変遷について教えてください

最初は、きちんと治療をし「うまい・安い・早い・感じがいい」を大切にして、患者さんに好かれる歯科医院を目指していました。「予防」については「治療のついでに」という位置づけだったと思います。経営面でもうまくいっていましたが、傍らでコンセプトや信念に欠けるスタイルに葛藤を感じていました。2012年のある時、「ちょっと予防についても勉強しよう」という気持ちで参加した予防歯科セミナーが大きな転機となりました。「うまく・安く・早く・感じよく」治療する歯科医療は、時に患者さんの未来にむかって無責任になりうることを、知ってしまいました。知ってしまった以上、「これではいけない」と思い、クリニックの診療システムと歯科医師・歯科衛生士・受付事務の意識改革に着手しました。患者さんの悪い所をただ治すのではなく、「口の中の健康を維持、向上させながら年齢を重ねていくお手伝いをする」ことが、今の当院のコンセプトです。



乳酸菌 LS1 の説明を聞く畑院長と歯科衛生士さん。



Apple Dental Center の美人衛生士さんたち。患者さんからの信頼も厚い。

すべての面でさらなるレベルアップを 2017春のセンバツ甲子園ベスト8の 健大高崎高校が見据える夏への道



乳酸菌 LSI アンバサダー
塚原謙太郎さん



(2回戦) 福井工大戦、9回ウラ三走・小野寺選手が一瞬のスキを突き本塁へ、同点に。延長15回引き分け再試合へ。

選抜高校野球大会に出場した健大高崎高校。2回戦では福井工大福井高校(福井)と延長15回の再試合を戦うなど熱戦を演じ、投打走塁にハッラツとしたプレーを見せてくれました。ベスト4をかけた秀岳館高校(熊本)との試合では、初回に二点本塁打を許すなど、序盤から苦しい展開で主導権を相手に握られ、挽回ならず敗退。日本一は夏にお預けとなりました。

チームを裏から支える塚原トレーナーは「大会を迎えるにあたって、冬のトレーニングを始め、フィジカルコンディショニングの調整は万全でした。主将の湯浅が直前の練習で怪我をしてしまい、残念ながら本大会に出場できなかったが、それでもチーム全員で彼を出場させるまで勝ち抜こうという想いでやっていましたね。」とチーム状態には手応えを感じていました。湯浅主将が欠場という危機にも、チーム一丸となって戦えたということが収穫だと語っていました。

秀岳館高校との準々決勝では、試合前の意気込みは当然ありながらも、「序盤の相手の勢いに飲まれ、一気に気持ちさがれ、押し切られてしまった。フィジカル面では全く負けていなかったが、特にメンタルの部分で自分たちの弱さが表れた試合でした。」と技術、フィジカルだけではなく新たな課題を感じることができた試合だと分析していました。

一方、これまでなかったポジティブな一面として、塚原トレーナーからも直接指導していただけたのに、自分たち自身がそれぞれ考えてコンディショニングを調整する器具やケア用品を持参して大会中に望んでいたそうです。もちろんその中には湖池屋の乳酸菌LSIもあり、選手たちが日々の連戦の中で口腔内を意識してケアをし、コンディショニングの一環として取り組んでいたということも伺いました。

冬から始めた継続的なサポートがしっかりと浸透しているという事実でもあり、悲願の日本一を目指すチームにさらなる武器となるべく、乳酸菌LSIは健大高崎高校の選手に寄り添っていきます。

(宮城県) 秀光中等教育学校 第8回全日本少年春季軟式野球大会出場

春の全国大会は惜しくも3位、「日本一からの招待」叶わず 秀光中の全国制覇の道はまだまだ続く！

仙台育英高校と同じ「KUEI」のユニフォームを着用し、中高一体型で文武両道を目指す秀光中等教育学校。就任11年目の須江航監督(34)の指導の下、選手たちは高い意識で「日本一のチーム」と呼ばれるための練習、日常生活を日々送っています。

そして、迎えた春の全国大会。3日間で5試合を戦うというハードスケジュールの中、順当に準決勝進出を果たします。

相手は同じ東北勢の秋田クラブ。先発を任せられた笹倉世風投手(2年)は初回からリズムが作れず、連打を浴びる苦しい展開。主将の宮本拓実投手(3年)が好救援で試合を落ち着かせるも序盤で0-3とリードを許してしまいます。期待の打線も相手投手のコントロールが光り、狙い球を絞れずなかなかチャンスを作れません。追い上げたい後半も逆に追加点も許して、0-4と万事休す。春の全国制覇は叶いませんでした。

試合後須江監督からは生徒たちへこんな言葉がかけられました。「昨年の夏から始まった君たちの世代。周囲からは実力がなく、厳しいと言



惜しくも準決勝で敗れた秀光中等教育学校

われながらも冬の期間、課題にしっかりと向き合って練習に取り組み、チーム力を積み上げて来られた。3月までの半年間は本当に疾走感のある日々で充実していたように思う。そんな中でこの今日の敗戦、3位という結果はそれぞれの立場で色々な形で心に響いていると思う。この敗戦を糧にして、全国制覇奪還への日々が順風満帆に続けば良いが、そんなに甘くもないでしょう。これから来る向かい風にもチーム一丸となって乗り越えていこう。」冬の期間に積み上げてきたことを評価しつつも、それが優勝という結果につながらなかった事実をしっかりと理解して、次への道標を語っていただきました。

宮本主将以下選手たちの悔しい涙が溢れた春の全国大会でしたが、「日本一からの招待」にふさわしいチームへとチームは敗戦翌日に早速、埼玉遠征を行い始動いたしました。

口腔内ケアプロジェクトとして、乳酸菌LSIは夏の全国制覇を見据える秀光中等教育学校軟式野球部の応援をさらに続けてまいります。



全国制覇奪還へ向け始動したチーム

乳酸菌エル・エス・ワンは、湖池屋の特許技術を使用した商品です。(特許第4203855号:乳酸菌を有効成分とする生菌製剤および乳酸菌含有食品)



株式会社 湖池屋

メール ls1shop@koikeya.co.jp

TEL 0120-749-418

FAX 03-3979-2184

コイケヤ LSI ショップ

検索

http://ls1.koikeya.co.jp/

